

表紙のことは

茶道部

那須高明

身体の奥底から声を出し、気合いを入れ、自分と仲間を励ます運動競技とは対象的に、絵を描くとか、花を生けるとか、お茶を点てるとかの喜びは沈黙の中にあるように思う。

どこの学校にもあるわけではないが、近ごろ女性生徒の間で人気のある部活が茶道部だそうである。道具類も部屋も限りがあるからお稽古も大変だろうなと思うが、結構部員が多い。私のクラスに七人もの部員がいて、ある時お稽古のお客に招かれたことがあった。

おいしい和菓子と抹茶を頂いた。なるほどこれは魅力だと思った。部活の日にはお菓子の準備をするのが大きな楽しみだそうだ。普段はギャーギャーワイワイ喧嘩を作り出している子達が、神秘的な顔で道具をそろえお点前をし、お茶を運ぶ。

その間ほとんど声を出さない。作法を知らない私がまごつくつくと、ニコツと笑ってそつと教えてくれる。それがとても大人びた表情と仕草なので驚いた。

お菓子の魅力もさることながら、実はこの沈黙の世界を作る(演出する)魅力がこの子達をひきつけているように思えた。

絵の授業でもそうだが、教師が多弁になって、生徒への注文が多すぎると生徒は絵に集中できなくなる。簡潔な言葉で課題が提示できたとき、生徒は自分の世界に立って自分の絵に挑戦する。その時教室は生徒自身が驚くほどの静寂さに満たされる。

喧嘩も静寂も生徒自身が必要としている心の栄養分なのだと思う。

(なす こうめい 長岡大手高校)

「次号(第三二号)予告」

特集 「学校五日制を考ふる」

◇どう考ふる、学校五日制

矢野 教・板橋 育夫

◇最も最優先の原理とは

― 第五回研究集会報告 ―

◇子どもの権利条約と学校

八木 三男

◇登校拒否を考ふる(講演)

石田 一宏

◇新教科書と子どもの学力

岡野 勉・他

◇評論・新潟県教育界における

「学閥」問題(仮題)

山住 正己

◇忘れえぬ人びと 第二回

坂東 克彦

※一九九二年七月一五日発行予定